

AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2009. 11. 1 アオヤマオイコスノモス 第15号

青山学院大学経済学部設立60周年記念 AEEC設立総会・懇親会 報告

経済学部長 平澤 典男

今年2009年は同窓会設立10周年の年であるとともに、経済学部設立60周年の年です。同窓会員の皆様には、すでに会報第14号におきましてご案内のとおり、経済学部では60周年記念事業実行委員会を設置し、記念テーマ「伝統と進化—経済学部の昨日、今日、明日—」のもとにさまざまな計画をたて、順次実行を開始しております。

さて、その「昨日に関するプロジェクト」として、2009年7月22日(水)に、青学会館アイビーホール3F アロンにおいて、AEEC設立総会・学部懇親会を開催いたしました。AEECはAoyama Emeritus Economist Club を短くしたもので経済学部で教育と研究の日々をすごされた名誉教授の方々を中心に現在の経済学部に関わる教職員が一同に集い、学部の「昨日」を「今日」に繋ぐ役割をもった会として企画されたものです。出席いただけた名誉教授のかたは、榎本先生、原(豊)先生、小玉先生、熊谷先生、三和先生、大住先生、坂本先生、田島先生の8名。同窓会からも太田会長をはじめ4名のご参列をいただき、学部からは教員27名、職員9名の出席を数え、総勢51名の集いとなりました。

若干の紙面をいただき、石井先生による詳細なメモをもとに会の経過を紹介しましょう。6時9分、集会委員高嶋先生の司会で開会が告げられ、宗教主任大島先生の祈祷のもとに参加者一同ところをひとつにして再会を感謝しました。6時11分、私の挨拶は同窓会報を引用し、60周年の記念事業は変えるべきものを変え、変えてはいけないものを受け入れる儀式であり、「伝統」は変えずに受け入れ、変えるべきものを変えて「進化」しようではないかと呼びかけるものでした。6時17分、同窓会会長太田様より、各名誉教授の功績への感謝の後、学部と同窓会の連繫、ゼミ連と同窓会の交流について触れるご祝辞をいただきました。その後、60周年記念事業実行委員会コンピナーの石井先生から参加名誉教授の紹介、6時30分、ようやく乾杯へとたどり着きました。

立食形式で食事をとりながらの歓談は、時を忘れさせるところでしたが、7時になると、司会者は、今年が経済学研究所復活5周年であることに触れ、台風の到来で中止となった開所式に備えて作られたパワーポイントのスライドショーが流されました。かつての倉庫のような研究所に「ああ、そうだった」の声があがり、研究所復活をその一部とする5年前の学部改革計画を再確認しました。続いて、名誉教授おひとりおひとりから、お言葉をいただきました。久方ぶりに握るマイクのはずが、すぐに名調子を取り戻し、かつての授業もかくあらんと思わせる個性あるスピーチの数々、経済学部の知られざる歴史をお聞かせいただき、また、いまだ研究意欲衰えず生涯現役でいらっしゃるお話に大いに刺激を受けたひとときでした。

宴も佳境に入ったところで、Memories of A-Econと題して流されたスライドショーは後藤助手の力作ですが、学部のさまざまな記録のなかから、各先生方の往年の、あるいは若々しい、あるいは初々しい写真を掘り起こし綴ったもので、さながら経済学部グラフィティとなっており、場面の展開とともに歓声しきりの盛りあがりを見せてくれました。しかし、当日の最大のサプライズはなんといっても、One Time Duo、石井・後藤両先生によるビートルズの名曲「In My Life」の熱唱ではないでしょうか。私には、学部の一体化を願う歌に聞こえました。

最後に、学部ではめったに撮ることのできない集合写真の撮影の後、午後8時55分、経済研究所所長の藤村先生によって閉会が告げられ、たのしいひとときに幕が下ろされたのでした。

振り返るに、AEECの会はただの懇親会だろうと見る向きもあるかもしれませんが、私は30-40歳代、50-60歳代、70-80歳代の経済学部を共有する3つの世代が楽しい会話のなかで昨日を学び、期待に応えなければとの思いで明日に向かうための十分な機能を果たしたと信じています。30代の若手教員が80代の名誉教授と意気投合し、話し込んでいる姿がそう感じさせてくれました。参加された多くのかたが、第2回のAEECの会を期待されたと私は思っています。



校友会埼玉支部へ

校友会埼玉支部 支部長 久世 吉彦 ('66)



経済学部同窓会創立10周年おめでとうございます。私の所属した('62~'66)体育会自動車部はOB会の組織・活動も活発でOB・OGと会う機会も多く何十年経っても先輩後輩の信頼関係は変わらず、私も66年卒業後40年あまり自動車部オンリーでした。と或る日、大宮に自動車部のOBがいるということで平成8年校友会より埼玉支部設立をと・・・その年の11月に立ち上げた次第です。今年11月で14年目を迎えます。これが埼玉支部の始まりです。幹事・会員皆様の力強いサポートでこの13年間副支部長4年、支部長9年務めさせて頂いておりますが、この数年、設立時の勢いがなく新入会員又総会への出席が多分に減少傾向にあります。支部活性化に向け、先輩も後輩も是非当支部の部会活動、ゴルフ部会等にご参加頂き楽しい時を過ぎて頂けたらと思っております。いつでも埼玉支部は大歓迎致します。これからも皆様のご支援をよろしく願います。

事務局：道山閣 048-664-6780

思い出がいっぱい

校友会鹿児島県支部 支部長 野田 譲二 ('67)



中等部入学は弱冠13歳の時にて、それまでの小学校(森村学園)での制服とは違い、自由な服装で、環境の違いを感じましたが、そのような中、色々な変化が起きました。

まず、通学はバス利用から自転車に切り替えた事です。現在の体力はこの時代に鍛えられた足・腰の強さに因るものと感謝しています。お陰で、大好きなゴルフも――。

卒業の時には、担任の久保和子先生が初めて私達を送り出し、その後、結婚退職されました。そこで、新婚家庭の鎌倉まで仲間と愛用の自転車で押しかけたことは、大変きつい道中でしたが、楽しい思い出として記憶に残っています。

大学は中等部の仲間より3年遅れでしたので、年下のクラス・メートになり、4年生との幅広い交流も自然と広がりました。当時は文部省の帰国子女入学制度システムを利用し、単位を大幅に取る事が出来、その後の単位取得が楽になりました。増えた自由時間を利用して、原宿・表参道の友人の店でアルバイトを2年間、その他、フランス語の通訳兼ガイドとしての手伝いをしました。

現在は、妻の関係にて「指宿フェニックスホテル」を経営していますが、私を育ててくれました青山学院大学への恩返しとして野球部の合宿を引き受け、17年間に亘り、河原井監督を始め多くの方々と親しく接していただき、さらに、鹿児島県支部の校友も多く参加され、幅広い交流に繋がりました。

なつかしい顔――数年ぶりに会うのに昨日会ったばかりのような顔――。

会ったとたんに昔の呼び名で呼ばれ、ひととき学生時代に戻ってしまいました。

年間平均19度と暖かいこの地で、健康に留意し、これからも鹿児島県の支部長・校友会の代議員として青山学院の発展を見守り・支えていきたいと思っております。

「経済学部同窓会給付奨学金 ～給付奨学生からの声～」

2004年度よりスタートしました後輩支援のための冠奨学金「経済学部同窓会給付奨学金」は今年度も3名の経済学部3年次生に各15万円計45万円を給付することができました。

受給した学生(T・Yさん、Y・Sさん、N・Iさん)からの近況報告をご紹介します。

1. 奨学金の使途
 - ：就職活動の資金(スーツ、書籍、交通費など)・生活費(アルバイトの時間を軽減)・家計への仕送りなどに充てた。
 - ：学費の補助や普段の学業に必要な感じていた電子辞書、また就職活動の準備としてスーツや資格取得のための参考書などを購入することができた。
 - ：奨学金により学費納入の一部に充当することができた。
2. 受給後の学生生活
 - ：アルバイトの時間を軽減し勉強に集中することができた。
 - ：就職活動の資金や家計への貢献ができ、将来の不安や精神的な負担が軽減された。
 - ：大学生生活の目標の一つである「4年間に500冊の読書」を達成するための資金として大いに活用できた。
 - ：奨学金によって就職活動の準備を整えることができ、学費納入の不安も取り除かれたので就職活動に専念できている。
 - ：家庭の経済的事情などにより、一時は退学や休学することも考えたが奨学金により両親の負担を減らす事ができ、現在も大学に通うことができている。
3. 経済学部同窓会(寄付者)への感謝
 - ：皆と同じように学校生活を送ることが嬉しく感謝の気持ちで一杯です。今は、その感謝の気持ちを自分が精一杯勉強することでしか表せませんが、社会に出たときに何かしらの形で貢献できたらいいなと思っています。
 - ：ご厚意により私のような貧乏学生に光を与えて下さり、大変有難うございました。このご恩を忘れず、感謝の強い想いで日々学業に励み、精進してまいります。
 - ：奨学金によって一人でも多くの人が夢や目標を諦めず走り続けることができるので、これ以上に素晴らしいことはないと考えさせられました。
 - ：今回の奨学金受給の経験を忘れず、将来寄付する側の人間になれるよう日々努力していきたいと思っております。このたびは誠に有難うございました。

以上

* 後輩在学生のために冠奨学金「経済学部同窓会給付奨学金」は今後も可能な限り給付を続けていきたいと考えます。同窓会年会費の継続納入を宜しくお願いいたします。

同窓会主催講演会・最近の講演会の感想文から

佐藤 英二 ('74)

当会主催の講演会もすっかりお馴染みになってきました。同窓会発足6年目の2005年5月に第一回目を開催してから、本年7月には第14回目となり回を重ねる毎に参加者の数が増えて来ている状況です。講演会開催の主旨は、同窓会会員には優先的に有名講師の講演を無料で聴講出来るというメリットを享受して頂く事、同窓会の活動をより多くの学院関係者に認知して頂く事等があります。時には硬いテーマ、時にはややソフトなテーマとバラエティに富んだテーマを選定する事に役員一同議論を重ねています。

本年5月には東京大学生産技術研究所の山本良一氏には地球環境問題をテーマにした講演、そして直近の7月には同志社大学教授の浜矩子氏により、グローバル恐慌と言えらるる状況をどうやって抜け出すかというテーマで、ご講演をお願いしました。今回は講演を聴講された多くの方から感想が寄せられていますので、以下抜粋して披露します。紙幅の関係から、全投稿を掲載出来ません事をお詫び申し上げます。

以上

第13回「地球環境問題を考える」

(講師：山本良一氏)の感想
小島勤氏 ('63卒・'65院修了)

我が国地球環境問題の第一人者である山本良一先生(東大生産技術研究所教授)を迎え、今まさに直面している地球温暖化の危機と、我々の取るべき施策について、改めて考えさせられる内容の講演であった。

先生は地球温暖化の危機の現状を、図表を用いて解りやすく説明された後、世界は低炭素革命へ大きく動き出していること、このまま地球温暖化を放置すれば焦熱地獄となり、この地獄を回避するには天文学的努力を払わなければならないので、我々は低炭素、循環、自然共生型の社会作りに率先して取り組まなければならないこと、特に日本は先ずアジアを運命共同体と考へ共同で取り組んでいかなければならないと、力説された。

先生は日本の世論形成に大きな影響力を与える一部評論家が環境問題でも、世界の科学者の大多数が認める科学的英知から目をそらし、企業や日本の国益といった側面からこの問題に発言していることにも触れながら、政府や企業の温暖化対策への取り組みが、かつての水俣病問題処理などにおいて、少数科学者の提言ということによって軽視したため、かえってその後の対策に後れを取り事態を大きくさせてしまった結果を踏まえ、命に関わる問題については、たとえ多数意見ではなくても、少数意見に謙虚に耳を傾けていく姿勢が問われているのではないかとのご示唆に、改めて深く考えさせられた。

蛇足ながら、今回は夜の講演会であり、学生の参加者も少なかったが、全学の学生が参加し易いような時間帯の中で、全学の学生に聴講して欲しい内容の講演会であった。

経済学部卒業生 S 氏

経済学部同窓会主催の山本良一先生の地球温暖化問題をテーマとする講演会に参加しました。

先生は東大理学部の教授でいらっしゃいますが、自然科学的な話だけでなく、世界的人口爆発の問題・水資源の枯渇など、経済的な側面からも人類が現在抱える問題を丁寧にご説明いただきました。

私自身、地球温暖化は待ったなしという所まで来ているなどということを大いに認識させられた次第です。

講演の最後には活発な質疑応答があり、皆さんよく勉強されているなど思いました。

聴講者は経済学部同窓会会員だけでなく、大学の先生方や現役の学生、一般参加者もいるようでした。

このような機会を定期的に設けて下さっている関係者の方々に感謝します。

会場は堅苦しくなく気軽に立ち寄れる自由な雰囲気です。

皆さんも是非、会場に足を運ばれ、青学仲間と知的なひとときを過ごしてみたいかがでしょうか。



山本講師

第14回「グローバル恐慌をどう生き抜くか」

(講師：浜矩子氏)の感想
経済学部経済学科 河村祐毅氏

経済学部同窓会主催の講演会に初めて出席し、浜矩子先生の『グローバル恐慌をどう生き抜くか』を論題とした話を聴かせて頂きました。当初、同窓会の講演とは学生には難しいものと思っていましたが、とても丁寧に話されて、聞き手を退屈させないようなユーモアが折り混ぜられているなど、大変聴きやすいものでありました。

卒業生や経済学部の先生方が同席し、大学の講義とは全く異なった雰囲気話で話を聞くことがとても新鮮でした。また、普段は我々学生に講義をされている経済学部の先生方が、浜先生に対し熱心に質問する場面に不思議な感覚がしたものです。そして、多様な視点からの質問の回答を冷静に述べられる浜先生の姿は素晴らしいと感じました。大学では他の学生の意見を述べられる機会がありますが、専門家同士の意見のやりとりを参考にすることは本当に大切なことであると思いました。

講演会での論題は、経済学部生として興味をひかれるものばかりですので、今後も参加し続けたいと思います。

松下晴紀氏 ('77)

金融の暴走が招いた大恐慌。この「グローバル恐慌をどう生き抜くか」が今回のテーマである。

浜先生によると「この恐慌で、世界は今《自分さえよければ病》に罹っており、各国の保護主義的政策による《合成の誤謬》が起きている。こうした状況を打開するには《あなたさえよければ》の発想が必要である。アメリカはバイ・グローバルで中国や日本からモノを買う。中国や日本は景気がよくなるからアメリカから何かを買う。このように相互に活かし合わない現状打開は困難だ。」とのことであった。

私としては、最近、世界経済は最悪期を脱したという意見が多くなってきたように感じる。これは従来型の景気回復策の結果であるから、今回の恐慌を克服したとしても、また起こる可能性がある。そうしないために《あなたさえよければ》の発想が必要なのかと感じた。

お話後の質疑応答も活発で、時間が無いのが惜しまれた。最後に付け加えれば、本講演は当初先生が懸念されていたように居眠りする人もなく成功であったが、せっかくの良いお話なので、もっと多くの人に聞いていただけたらと思った。



左：太田会長 右：浜講師

INFORMATION

経済学部創立60周年同窓会設立10周年記念事業
テーマ「伝統と進化・～経済学部の昨日、今日、明日～」

- ◆ 2009. 4.15(水) 【経済学部60周年】
現代経済デザイン学科総合講義・特別講義
【講師】神奈川県知事 松澤成文氏
相模原キャンパス E304 1限 学生対象
- ◆ 5.14(木) 【経済学部60周年・同窓会10周年記念】
第13回経済学部同窓会公開講演会
「地球環境問題を考える」
【講師】東京大学生産技術研究所教授
山本良一氏
青山キャンパス 総研ビル3F 第10会議室
18:45
- ◆ 6.30(火) 【経済学部60周年・同窓会10周年記念】
経済学会2009年度第1回講演会
「それでも私は船を出す」
【講師】日本経済評論社 社長 栗原哲也氏
相模原キャンパス E302教室 16:40～18:10
学生対象
- ◆ 7.2(木) 【経済学部60周年・同窓会10周年記念】
第14回経済学部同窓会公開講演会
「グローバル恐慌をどう生き抜くか」
【講師】同志社大学大学院教授 浜矩子氏
青山キャンパス 総研ビル3F 第10会議室
18:45
- ◆ 7.22(水) Aoyama Emeritus Economist Club
(青山エメリタス・エコノミスト・クラブ AEEC)の設立
経済学部で教鞭をとられた名誉教授の会
AEEC設立総会 青学会館 アロンにて
- ◆ 9.23(水祝) 【経済学部60周年・同窓会10周年記念】
第15回経済学部同窓会公開講演会
大学同窓祭 記念講演
「大転換期の発想法」
【講師】経済評論家 三原淳雄氏
青山キャンパス 総研ビル 12F 大会議室 14:15
- ◆ 10.17(土) 【経済学部60周年・同窓会10周年記念】
経済学部主催講演会
「情報通信技術の最前線、その未来」-ICTは経済再生の
牽引車となりうるか-
EMCジャパン株式会社代表取締役社長諸星俊男氏
/マイクロソフト株式会社代表取締役副社長堂山昌司氏
青山キャンパス ガウチャーメモリアルホール1F
13:00

今後の予定

- ◆ 11.7(土) 【経済学部60周年・同窓会10周年記念】
経済学部主催シンポジウム
「グローバル化時代の地域社会像
-自治体と大学の連携を通して-」
本学部卒業の4市長をお迎えして
【パネリスト】日光市長・齋藤文夫氏('67)
/佐世保市長・朝長則男氏('71)
/高知市長・岡崎誠也氏('75)
/前横浜市長・中田宏氏('89)
青山キャンパス ガウチャーメモリアルホール1F
13:30開場-14:00開始 予定
- ◆ 11.26(木) 【経済学部60周年・同窓会10周年記念】
経済学会・同窓会共催
経済学会2009年度第2回講演会
第16回経済学部同窓会公開講演会
「日本経済-再生に舵を切れるか」
【講師】早稲田大学教授・経済評論家 川本裕子氏
青山キャンパス 総研ビル11階 第19会議室
18:00-19:30 予定
- ◆ 2010. 1.14(木) 幹事会・懇親会
青学会館
- ◆ 3.17(水) 【スカラシップチャリティーゴルフ】
キングフィールズゴルフクラブ
ダブルペリア方式 6組予定
郵便またはE-mailでお申し込みください。
- ◆ 3.25(木) 卒業生勧誘
青山キャンパス

2008年度(平成20年度) 収支報告書

白 2008年4月1日 至 2009年3月31日

収入の部

(単位:円)

科目	決算額	次年度予算
1. 会費収入	1,474,000	2,350,000
2. その他収入	519,108	650,000
1) 雑収入	30,000	30,000
2) 預金利息	22,996	20,000
3) 寄付	52,226	200,000
4) 校友会大学部会補助	413,886	400,000
当期収入合計	1,993,108	3,000,000
前期繰越金	10,459,445	9,510,284
収入合計	12,452,553	12,510,284

支出の部

(単位:円)

科目	決算額	次年度予算
1. 事業費	398,742	400,000
2. 会報発行費	392,740	400,000
3. 印刷費	363,405	400,000
4. 通信交通費	316,192	400,000
5. 会議費	185,592	200,000
6. 事務費	49,767	200,000
7. 名簿管理費	505,988	510,000
8. 奨学金	450,000	300,000
9. 雑費(含む加盟費)	191,500	140,000
10. その他	88,343	150,000
当期支出合計	2,942,269	3,000,000
当期収支差額	△ 949,161	0
次期繰越金	9,510,284	9,510,284
支出合計	12,452,553	12,510,284

2009年度年会費を納入されていない方は下記へお振込みください。

ゆうちょ銀行(旧郵政公社)

口座番号: 00160-2-134995

加入社名: 青山学院大学経済学部同窓会

通信欄にご記入ください: 住所/氏名/1部2部商経 卒年/年会費種類

編集後記

飯村 肇('60)

1999年9月23日青山学院大学経済学部設立50周年式典に合わせ、経済学部同窓会は青山学院校友会大学部会傘下の同窓会として正式に充足した。会の名称を「青山学院大学経済学部同窓会」とし、目的を「会員相互の親睦と研鑽を図ると共に、大学および経済学部の発展に寄与する。」と定めた。

初代会長に榎本弘氏('54)、幹事長には室伏孝一氏('54)が選出された。それから10年、活動の「原点」として「母校への帰属意識の高揚」「キャンパスへの回帰」など「母校愛」をテーマにさまざまな同窓会活動を行ってきた。

「親睦」は懇親会の開催、EG21募金協賛スカラシップゴルフ大会の開催、大学同窓祭への積極的参加などである。

特筆すべきは「研鑽」で会員の自己啓発を目的とした「経済学部同窓会主催公開講演会」の開催である。(社)経済倶楽部のご協力により、著名な一流講師を招聘し既に15回を開催することができた。講義についての評判は頗る好評であり、現在は在学学生、他学部卒業生、教職員その他一般の方々にも開放して聴講していただいている。

「母校の発展に寄与」については、'04年度に後輩在学生への支援策として冠奨学金「経済学部同窓会給付奨学金」制度を創設し、以来一人当たり15万円を毎年2-3名に給付し、'08年度迄の給付奨学生は14名、給付総額は210万円となっている。支援の一環としては就活(就職活動)のための模擬面接、ゼミナール連合への支援なども行っている。

'09年度は大学経済学部設立60周年・同窓会設立10周年を迎え、同窓会は経済学部と共催でさまざまなイベントを企画実施しており、一人でも多くの会員各位の参加協力が待たれるところである。以上。

P.S. 同窓会副幹事長田中健氏('01)は去る7月に行われた東京都議会議員選挙に大田区から立候補され、トップ当選を果されました。ご報告まで。

青山学院大学経済学部同窓会会報 第15号

2009年11月1日発行

発行者 太田 義男

発行所 青山学院大学経済学部同窓会

皆様からの情報やご投稿、入会申込、会費納入等のお問合せは下記へ!

〒150-8691 渋谷郵便局 私書箱145号

ホームページ: <http://oikos-nomos.com/>E-mail: info@oikos-nomos.com